

「みずべ」の歴史 その3 明治丸シンポジウム

東京商船大学で第1回明治丸シンポジウムが2002年(平成14年)11月2日(土)に開催された。2000年に発足した江東区の水辺に親しむ会の誕生後間もない頃である。当時、東京商船大学に学外連携推進室という部門が新たに開設され、そこに就任された三上室長が大変熱心に働きかけて下さったおかげで、大学と水辺の会が共催で実施した。三上室長は水彩フェスティバルにも学生を連れて参加して下さり、また地域の小学校との連携にも非常に熱心であった。



記念すべき第1回は東京商船大学の丹羽隆子教授による東地中海の海事遺跡を訪ねて、陣内美子様のベネツィアの水辺の暮らし、元三菱重工の丸山四郎様による明治丸主機と各種蒸気機関、東京商船大学の庄司和民名誉教授による明治丸ふしぎ発見、という内容であった。

山本一力さんの基調講演(第10回明治丸シンポジウム)

現在、東京海洋大学の周囲は構内からフェンス越しによく見えるようになっている。以前は戦中からのコンクリート堀の中が見えづらかった。2011年(平成23年)11月に開催された第10回シンポジウムの講演では作家の山本一力氏に講演していただいた。この講演のほか、江東区副区長の佐藤哲章氏、深川観光協会の石島龍治氏、建築家の篠田義男氏、明治丸海事ミュージアムの松下修先生、東京海洋大学副学長の苦瀬博仁先生によるパネルディスカッションもあり、大学周囲の堀が話題になり、そのときの提言から堀の改修が実現した。

その後も少なくとも第11回(2012年)までは水辺の会が共催で本シンポジウムが実施されてきた。開催日は秋の文化週間の期間中に実施していたがその後、海の日である7月20日近辺で実施されるようになった。大学も統合され、このシンポジウムが大学の大きな行事に成長してきたが、本会はそのスタートから協力し、いまでもシンポジウムの企画や実施当日の手伝いを行なっている。

(本会理事 庄司邦昭)

清水さんを偲んで

本会創立当初からいつもお世話になった、本会会員の清水靖久さんが2020年4月29日(水・祝)に享年84歳で逝去されました。お元気なころは、お江戸深川さくらまつり、明治丸シンポジウム、古石場文化センターのシネマフェスティバルなど、本会のイベントにほとんど参加され、我々の気づかない所まで気を配りながらきびきびと動いてくださっていた姿が目につかびます。非常に残念で悲しい気持ちでいっぱいになります。毎年、8月初めに開かれた荒川火花大会には、水辺の会のために広いスペースを確保して下さったこともありました。今後この火花を見るたびに、いつまでもあの優しい笑顔を思い出すことでしよう。



イベント情報

○水彩サロン秋学期第3回 12月6日(日) 14時から森下文化センター、「小名木川秘話」山本鉦太郎氏



みずべ Mizube Vol.37



当会は江東・墨田両区の後援を得て門前仲町と東京スカイツリーを結ぶ舟運ツアーの実証実験を2019年11月に実施しました。そのうち、PRやアンケート調査に対して一般社団法人関東地域づくり協会の助成をいただきました。その他にも多くの方のご協力をいただきました。この場を借りて感謝申し上げます。

江東区には江戸開府以来歴史的に形成されてきた河川が多く残っており、水辺には恵まれていますが、必ずしもそれが活用されているとは言えません。江戸時代には深川地域が庶民の粋な遊びの場として栄えており、その主な交通手段は舟運でした。舟運により深川地域の活性化を図りたいというのが今回の舟運ツアーの狙いの一つです。



運航したルートには水のエレベーター

体験ができる扇橋欄干、十文字の形がユニークで美しいクローバー橋、沿川の公園や建物の景観、水鳥との出会い、水面に映える東京スカイツリーの眺望など、多くの魅力があります。

これまで東京スカイツリーを起点として同じところに戻ってくる周遊ツアーが定期的に行われていたが、周遊ツアーで同じルートを戻ると乗船者が飽きてしまうことが考えられ、また、せっかく船で遠くまで行っても上陸してその地域を楽しむことができず活性化にもつながらないという課題があります。

そこで、当会では、片道運航とし到着地で観光してもらうことで利用者の満足度を高め地域の活性化にも寄与する舟運ツアーを企画しました。乗船者には、到着地のガイドマップやパンフレットを差し上げ、自由に散策してもらうことにしました。

実証実験の結果では集客のためのPRに課題が残りましたが、当会では、本格運航の実現に向けて色々と知恵を絞って今後とも活動を続けていきます。新型コロナウイルスの流行が終息し舟運ツアーが再始動する際には皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

2019年の活動

昨年も皆様のご協力で多くの事業を行うことができました。ありがとうございました。
今年も様々なイベントを企画しておりますのでご参加、ご協力よろしくお願いいたします。

record in 2019



Spring, Summer

春, 夏

1 第15回お江戸深川さくらまつり (2019年3月~4月)

第15回お江戸深川さくらまつりは2019年3月23日(土)~4月7日(日)に開催されました。この年は桜の見ごろが長く続き、期間中楽しむことができました。江東区の水辺に親しむ会では例年通り黒船橋袂の火の見櫓下で無料休憩所を開催し、カフェとして甘酒、コーヒーを販売しました。今回、都立第三商業高等学校の女子学生の販売協力を得て楽しく行なうことができました。



2 夜の水彩カフェテラス

夜の水彩カフェテラスは2019年4月27日(土)に行なわれました。生憎、午前中は雨、午後も一時雨で、夕方には風も吹く、寒い一日でしたが、無事行なうことができました。江東区の水辺に親しむ会では、入口付近で綿菓子を販売し、80本くらい作りました。



3 水彩サロン2019春学期

水彩サロン2019年春学期を森下文化センターで開催しました。

- 第1回：5月12日(日)「門前仲町の今と昔」
大井哲爾(江東区副区長)
- 第2回：6月09日(日)「砂町の今と昔」
久染健夫(江東区船番所資料館)
- 第3回：7月14日(日) 講師体調不良のため中止

4 明治丸シンポジウム(第18回)

2019年7月15日(月)海の日のための祝日に東京海洋大学越中島会館講堂で開催されました。今回のテーマは「燈台巡廻を通じて近代日本を支えた明治丸」というテーマで、「明治丸の燈台巡廻の航跡」庄司邦昭(東京海洋大学名誉教授)、「灯台の魅力と灯台守のいた時代」不動まゆ(「灯台どうだい?」編集長)、「灯台の歴史と取り巻く変化」向井大幸(海上保安庁交通部企画課)、「海難防止技術と燈台の役割」國枝佳明(東京海洋大学教授)の講演がありました。講演終了後には懇親会も開催されました。



5 深川敬老感謝まつり

2019年9月15日(日)、16日(月・祝)に深川敬老感謝まつりが開催されました。水辺の会では、高橋船着場でカフェを開き、乗船券の配布を行ないました。



Autumn, Winter

秋, 冬

6 水彩サロン2019秋学期

水彩サロン2019年秋学期を森下文化センターで開催しました。

- 第1回：9月8日(日)「芭蕉と俳句のまち、江東」
小山正見(江東区教育委員会委員)
- 第2回：10月13日(日)「深川芸者と江東」
紗幸(深川芸者)
- 第3回：11月17日(日)「グラスゴーからみた江東」
増田光弘(東京海洋大学)

7 第20回水彩フェスティバル

2019年9月21日(土)に小名木川クローバー橋周辺で第20回水彩フェスティバルが開催されました。水辺の会では、乗船券の配布、カフェ、小川町の産直野菜の販売、綿菓子の販売などを行ないました。天候が心配でしたが何とか一日雨にならず、山崎江東区長にもご挨拶をいただき、延べ1000人の参加者がありました。



8 繋ぐ!!クルーズ2019

門前仲町と東京スカイツリーを繋ぐ舟運ツアーの社会実験を2019年11月の週末5日間に実施しました。いずれの日も初便は門前仲町(黒船橋乗船場)発です。乗船者数は92名でした。

開催日		
第1回	11月9日(土)	1便
第2回	11月10日(日)	2便
第3回	11月16日(土)	2便
第4回	11月17日(日)	2便
第5回	11月23日(土)	3便



9 リバーフェスタ江東(2020年3月、中止)

3月14日(土)、15日(日)に開催予定であったが新型コロナウイルスの影響で中止されました。